

岡山県内の児童・生徒のみなさんへ

いぬかいぼくどうきねんかん いぬかいぼくどうけんしょうじどうせいとしょどうてん し
犬養木堂記念館から、「犬養木堂顕彰児童生徒書道展」についてお知らせします。

いぬかいぼくどうけんしょうじどうせいとしょどうてん おかやまけんない じどう せいと
「犬養木堂顕彰児童生徒書道展」は、岡山県内の児童・生徒の
みな しょ いぬかいぼくどう し おも
皆さんに書をとおして犬養木堂のことを知ってほしいという思いから、
へいせい ねん はじ
平成6年に始まりました。
まいかいおお みな さくひん おも
毎回多くの皆さんから作品がよせられ、うれしく思っています。



犬養毅(号・木堂)

各学年の課題

中3	中2	中1		小6	小5	小4	小3
郷土の誇り	文化の創造	自由民権	※課題の説明です。 お手本ではありません。	記念の書	対話の心	きびの里	きぼう
行書	楷書または行書			国語および書写教科書の字体に準ずる			

しょどうてん かだい いぬかいぼくどう
書道展の課題は犬養木堂にちなんだものになっています。

いぬかいつよし ごう ぼくどう めいじ しょうわしよき かつやく おかやまけん きょうど ぼこ
犬養毅(号・木堂)は、明治から昭和初期にかけて活躍した岡山県が「郷土の誇り」と
せいじか ひろ せいじ さんか しゃかい じゅうみんけん じつげん めざ
する政治家です。広くみんなが政治に参加できる社会や「自由民権」の実現を目指す
み にほん きず どりよく
とともに「きぼう」に満ちた日本を築くため努力されていました。

ぼくどう あらす この つね たいわ こころ たいせつ しょうわ ねん ないかくそうりだいじん
木堂は、争いを好まず常に「対話の心」を大切に、昭和6年(1931)には内閣総理大臣
しょうわ ねん がつ にち かいぐんせいねんしょうこう きょうだん たお じけん
になりましたが、昭和7年5月15日に海軍青年将校らの凶弾に倒れました。(5・15事件)

ぼくどう しゅっしんち さと きびちほう ふる ぶんか さか ちいき ぼくどう
木堂の出身地である「きびの里」(吉備地方)は古くから文化が栄えた地域で、木堂も
しょ とうけん い ご ぶんか そうぞう ねっしん ぼくどう ようしょう ころ した しょ
書や刀剣、囲碁など「文化の創造」に熱心でした。木堂が幼少の頃から親しんできた書
うでまえ よ なか し きねん しょ もと ひと た
の腕前は、世の中に知れわたっていたため、「記念の書」を求める人が絶えませんでした。

詳細につきましては、犬養木堂記念館(086-292-1820)までお問い合わせください。